

ブルーインパルスが上空を飛ぶ東松島市牛網・浜市地区も、津波で大きな被害を受けました。しかし、地元で最も若い専業農家である熱海光太郎・和美夫妻は、「豊かな農地と活気ある地域を再生する！」と志を立て、二〇一二年十一月に株式会社よつばファームを起業しました。

震災後、人がいなくなり、一面に耕作放棄された畑が荒れ果てていく現状を「何とかしたい」と思い悩んでいた光太郎さんと出会い、ふる里を思う志に共鳴し、連携した活動が始まりました。全国から被災農地復旧のた

東北復興日記

83

NPO法人みやぎスマートアグリ理事長
伊藤博章さん

美しい農村取り戻したい

めに集まった、のべ千五百人を超えるボランティアの方々と一緒に、かるうじて形が残った母屋の泥出しや、栽培拠点となるビニールハウスを建て

ました。私自身も、被災地の復興まちづくりや、地域の活性化に貢献したいとNPO法人みやぎスマートアグリを設立。よつばファームの起業を支援し、牛網・浜市地区の農業再生に共に汗を流しているところです。

昨年十一月から行われた「東北の美しい未来創造塾」(仙台市、せんだい男女共同参画財団、JKSK共催)には和美さんと参加し、「草取りなどの農業体験ツアーがあったらぜひ参加したい」という三十代女性参加者らと語り合いました。

三月二日には、牛網・浜市地区の農業再生プロジェクトにより味の素冷凍食品株式会社「東北に

元気を！明日を耕すプロジェクト」の支援先に選定され、農事組合法人クローバースファーム(仙台市)と一緒に支援金の贈呈を受けました。写真、右が筆者。

よつばファーム、首都圏からのボランティア、そして仙台の人たちとともに水田と畑が広がる美しい農村の景色を取り戻す活動の、ようやく本格的な一歩が踏み出せそうです。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

